

第 99 回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

令和 5 年 7 月 6 日 (木) 議長：菅井 有 出席者 (敬称略)：新井富生、市川一仁、上杉憲幸、落合淳志、河内洋、九嶋亮治、小嶋基寛、岸本光夫、坂本直也、菅井有、杉本亮、関根茂樹、八尾隆史、森永友紀子、千野晶子、金子明央、和田洋一、井上透、秋元直彦、筒井康博、杉野英明、門松雄一朗、下松谷匠、赤羽慎太郎。

討議内容

- 1. SuSA について (関根)：**関根先生から SuSA について疾患概念、診断について提示があった。事前にヴァーチャルスライドによる 7 例の症例提示があった。疾患概念、診断の再現性、等について議論がなされ、その診断に関しても意見がかわわされた。今後のスケジュールとして、SuSA に関して関根先生に素案を作製頂き、菅井委員長ならびに味岡会長に提出していただく。作製後、大腸癌研究会ホームページ上に掲載する予定となった。
- 2. INF 廃止について (菅井)：**規約委員長の上野先生から提案があり、事前のメール審議で病理委員の全員一致が得られたので上野委員長に報告した。
- 3. 虫垂の項の草案について (岸本)：**岸本先生から大腸癌取扱規約 10 版改訂の原稿案が示され、虫垂の項目に関して説明があった。組織所見の説明についての文言、特に LAMN の組織所見 “粘膜筋板は消失し線維性間質で裏打ちされ圧排性の浸潤様式を示す” について様々な意見がかわわされた。組織分類には ICD 分類との対応を意識して作製した方がよいという意見もあった。最終的に、八尾先生および岸本先生に再度検討頂き、委員長と会長に提出いただく方針となった。
- 4. 簇出、低分化胞巣、最低分化度、DR アトラス作成および活用についての情報共有 (河内)：**上記については大腸癌研究会ホームページに掲載されているが、規約委員長の上野先生から病理委員会でも情報共有を依頼され、説明があった。今後のスケジュールとして、病理委員会の議論を河内先生から上野先生に伝えて頂き、引き続き病理委員会でも議論を続けていく方針とした。
- 5 炎症性腸疾患関連腫瘍ガイドライン病理領域の進捗について (菅井)：**下田先生から説明いただくので、今回は割愛した。
- 6. 神経内分泌腫瘍の組織分類および T 分類 (河内)：**次の規約改定に向けての議論がなされた。Carcinoid tumor と神経内分泌腫瘍の分類に関して、病理委員会としては、NET、NEC に統一して carcinoid という名称は廃止する方針とした。NET の日本語名称についても議論され、菅井病理委員長、味岡会長、河内先生、八尾先生で相談頂く方針とした。T 分類を腺癌の T 分類と混同している病理医がいるので、NET の項目に T 分類を記載し明確化する。河内先生には隣神経内分泌腫瘍 (NEN) 診療ガイドラインの 3 版の進捗を随時説明いただく方針となった。